

「驚くという才能」 休校中課題

要点の整理(ステップ1 意味段落)

次の空欄に本文中の語句を入れて、内容を整理せよ。

● 次の空欄に本文中の語句を入れて、内容を整理せよ。

第一段落(10ページ1行目～11ページ5行目)「にはある。」
ノルウェーの作家、ゴルデルが「いい哲学者になるためにたった一つ必要なのは、驚くという」ア「だ」と言ったのはなぜか
←

子供たちにとってはすべてが珍しく、「イ」の対象
↔

十年あるいは十五年もたてば、驚くべきことはなくなるのか
↓どこまでも退屈な「ウ」が続くと思われぬ日もある

第二段落(11ページ6行目)だが、そんな「」12ページ1行目「不思議なのだ。」
だが、退屈な日ばかりだろうか
・ 体験したこともない自分の感情の揺れに気づいて、ぎよっとする
・ 周囲の人々や異文化などに驚く体験をする
・ 自分と丁寧につき合うことで、自分の存在そのものが「エ」だと気づく

第三段落(12ページ2行目)「ただ、そんなこと」13ページ2行目「教えてくれている。」
不思議に満ちた「オ」にしながら、驚くことをやめてしまった人は大勢いる
←

退屈な毎日 退屈を紛らわす「カ」を求める
↓「キ」への期待を引き出すかもしれない
↓戦争を避けるためには、退屈を積極的に生きようとする「ク」が必要

第四段落(13ページ3行目)「平和な日々を」13ページ16行目「れない。」
平和な日々の退屈さに「ケ」を見いだす 誰もが持つ驚くという才能が大切
↓驚きとともに手にした問いを手放さないこと「コ」を手放さないこと
→ 二十世紀を生きてきた人間「サ」の世紀の言葉と方法で事態に立ち向かうとする
←

若い人たち「シ」を生き延びる言葉と方法を生み出し得る

要点の整理(ステップ2 全体)

次のア～カに当てはまる語句をノートに書きなさい。

● 次の空欄に本文中の語句を入れて、全体の要旨を整理せよ。

子供にとってはすべてが「ア」の対象だが、やがては驚くことなどなくなり、「イ」な人生が続くと思えない日がやってくる。退屈を紛らわせるためにイベントを求める私たちは、「ウ」への期待を引き出してしまうかもしれない。退屈な人間とは違って、若い人たちは平和を生き延びる「カ」と方法を生み出し得るはずだ。
「エ」に生きるためには、誰もが持っている驚くという「オ」が大切になる。戦争の世紀と言われる二十世紀を生き

要点の整理(ステップ3 百字要約)

● ステップ1、2を参考にし、要旨を百字以内まとめ、ノートに記せ。

内容の理解

次の問いに対する答えをノートに書きなさい。

一 筆者が「少しだけ幼い子供とつき合ってみよう。」(10ページ7行目)と述べるのはなぜだと考えられるか。次から選べ。

- ア 子供の純粋さに触れることで初心にかえるため。 イ 驚くという感情について改めて考えてみるため。
ウ 人間はどのように感情を学ぶのかを知るため。 エ 人生の退屈さを紛らわせて刺激を得るため。

二 「幼い人たちが何にでも驚き、……私たちはびっくりしてしまう。」(10ページ7～8行目)とあるが、なぜ「びっくり」するのか。次から選べ。

- ア まだ幼い子供たちが、人生に必要な知恵をすでに身につけているのを目の当たりにするから。
イ これまで気にとめていなかったささやかな不思議に気づき、世界が驚きに満ちたものに見え始めるから。
ウ 子供のうちは誰もが持っている豊かな才能が、大人になると失われてしまうことを実感するから。
エ 成長すると不思議がるようなものも周囲に見当たらなくなって、驚くことなどほとんどなくなるから。

